

森林環境改善学習会を開催

水資源機構では、森林に関する意識の向上等を目的とし、森林環境改善学習会を行っております。思川開発建設所事業用地内で開催されるのは、今年で3回目となります。

関東地方に所在する当機構の建設所等に勤務する職員を受講の対象としており、思川開発建設所からの参加者6名を含む17名が参加しました。以下、学習会についてご報告します。

1. 日程 平成18年11月8日(水)～11月10日(金)
2. 場所 思川開発建設所会議室、南摩ダム建設予定地内
3. 講師等 宇都宮大学 大久保達弘助教授、林業・木材製造業労働災害防止協会

大久保先生の講義を通じて、生態系と森林は深く係わりがあること、また、その森林を維持していく手法を学び、森林環境の知識と意識を高めることが出来たと思います。

林業・木材製造業労働災害防止協会による特別教育においては、チェーンソーの操作及び点検整備と実際に立木を切り倒すことも行いました。

この学習会を通じて、「安全で良質な水を安定して安くお届けする」水資源機構の使命を達成するため、水源地域の森林環境の保全にも目を向け、水の管理に直結する問題として認識することができました。今後とも、利水者・ユーザーや地元の皆様のニーズに的確に応えていく努力を続けます。



↑ 切り倒しに挑戦中!

河川の連携・地域をつなぐ明日への水 思川開発

思川だより

独立行政法人水資源機構 思川開発建設所



新年のご挨拶

独立行政法人水資源機構

思川開発建設所長 森田義則

新年あけましておめでとうございます。皆様方には日頃より思川開発事業の推進につきましてご理解とご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

当事業は、多目的ダムとして思川の支川の南摩川に南摩ダムを建設して洪水調節を行い、南摩川、思川、利根川の中・下流地域の洪水被害を軽減します。さらに南摩ダムと黒川、大芦川とを導水路で連絡し、河川間で水の融通を行うことで、南摩川等の既得取水の安定化及び河川環境の保全等のための流量の確保と栃木県、茨城県、埼玉県、千葉県の新たな水道用水を確保するものです。

さて、南摩ダムの建設に伴う関係者の皆様方の移転の契約につきましては、お陰様で完了することができました。改めて御礼申し上げます。今後とも、水没地、道路用地等の用地取得の推進を図るため協議を進めさせていただくとともに、事業に対してご理解が得られない方に対しましても、ご理解とご協力が得られるよう努めて参りたいと存じます。

次に、付替県道並びに工事用道路につきましては、関係者のご協力を得て、昨年末には、付替県道工事の一部に着手することができました。来年度から本格的工事に向け、引き続き、用地調査、技術調査を実施し、順調な工事の進捗が図れるように進めて参りたいと思っております。

また、導水路、取水・放流工の関係につきましても、お陰様で取水・放流工の用地を取得することができました。今後とも、取水・導水地区の皆様方には引き続き説明を行うことにより、事業にご理解いただけますよう努力して参ります。

水資源機構は、「安全で良質な水を安定して安くお届けする」ことを経営理念として掲げ、さらなるコスト削減、環境及び水質保全、地域との連携に努め、お客様であるユーザーの皆様方、国民の皆様方のニーズに応じて参ります。

事業の実施にあたり私たち職員は、地域社会の一員であることを念頭におき、自らが知識を習得し、行動に移し、自然との共生を図り、良好な水環境の保全に取り組んで参ります。

今後とも、地権者の皆様方をはじめ地元の関係団体、地域住民の皆様方、関係行政機関、ひいてはユーザーや国民の皆様方のご理解とご協力をお願い申し上げます。新年のご挨拶といたします。



人事異動

- | | |
|----------------------------------|-----------------------------------|
| ◆ 一月一日付で異動のありました職員を紹介いたします。(前任先) | ◆ 十一月一日付で異動のありました職員を紹介いたします。(前任先) |
| ◆ 第一調査設計課長 鈴木 洋司 (徳山ダム建設所) | ◆ 第一調査設計課長 鈴木 洋司 (徳山ダム建設所) |
| ◆ 第二調査設計課長 吉澤 利男 (徳山ダム建設所) | ◆ 第二調査設計課長 吉澤 利男 (徳山ダム建設所) |
| ◆ 一月六日付で異動のありました職員を紹介いたします。(転出先) | ◆ 一月六日付で異動のありました職員を紹介いたします。(転出先) |
| ◆ 第一用地課 杉田 康司 (荒川ダム総合事業所) | ◆ 第一用地課 杉田 康司 (荒川ダム総合事業所) |



編集後記

年末までは暖かな日が続いていましたが、ここへきてようやく寒さが厳しくなってきました。

平成19年も事業の推進に向け、職員一丸となって頑張る参りますので、今年もよろしくお願いいたします。

編集・発行所



独立行政法人 水資源機構

思川開発建設所
〒320-0065 宇都宮市駒生町中丸3368
Tel(028)622-8941 Fax(028)622-8945
ホームページhttp://www.water.go.jp/kanto/omoigawa/index.html

鹿沼事務所
〒322-0346 鹿沼市上南摩187-18
Tel(0289)77-3888 Fax(0289)77-3890

栃木県・鹿沼市と協力した
第3回クリーンアップ作戦

思川だより第20号でもお知らせしており、当建設所では、貯水池等事業用地内で不法投棄の防止に取り組み、定期的にクリーンアップ作戦と題して、ゴミの回収作業をしております。

昨年11月30日には栃木県及び鹿沼市職員の方々のご協力も得て、今年度第3回目となるクリーンアップ作戦を実施し、南摩川河川内及び河川敷を重点的に、約9kmの区間のゴミの回収を行いました。午前中に雨が降ったため、やや増水した河川に注意し、また、寒さと闘いながらの作業となりました。河川内のゴミは、道路からゴミの有無が非常に分かりづらく、河川内を実際に歩くことによって、大量のゴミを集めました。

主なゴミとしては、一斗缶、ビニール、タイヤ、自転車、テレビ等があり、45Lのゴミ袋約70袋分を回収しました。



「第4回おやま思川サケまつり」
が開催されました



↑ 快晴の思川河川敷にて鮭鍋に舌鼓をうった

昨年11月25日、小山市役所の西側を流れる思川の河川敷で、第4回おやま思川サケまつりが開催されました。

当日は、市民の方が思川の河川敷に集い、思川を遡上してきたサケと地元野菜たっぷりの鮭鍋に舌鼓を打ち、水質観察会や救急救命講習、思川に関するクイズなどで楽しみ、最後に河川敷の美化活動を行いました。

小山市を中心とする下都賀漁業協同組合のお話では、この思川で毎年6~7千匹のサケが捕獲されるそうです。

思川開発事業では、洪水調節や新規利水の開発のほかに、河川環境の保全のための流量の確保も目的の一つとしてなっています。地域の方々の心のよりどころになっている思川により沢山のサケが遡上できるような河川環境の回復に役立てるよう、事業の早期完成を目指していきます。

平成19事業年度予算内示額の決定

思川開発事業の平成19年度予算内示額が昨年(H18年度)と同額の79億2千万円に決定しました。

平成19年度の予算の内容は、用地先行取得償還費として約42.8億円その他、付替県道(杓子沢工区)工事を継続実施すると共に、新規の工事用道路工事の実施となっています。その他、南摩ダム及び導水路の実施設計、関連施設の測量調査・設計並びに環境調査の継続実施、水没地及び付替県道の用地取得等となります。

付替県道工事が始まりました

思川開発事業に係る県道上久我郡栃木線の付替工事「付替県道杓子沢工区その1工事」についてご紹介します。本工事は、思川開発事業において初めての付替県道の工事になります。

工事の場所は、付替県道の入口部分にあたり、施工延長約150mです。工期は平成18年11月25日~平成19年3月24日の120日間です。

工事現場は住家に近接している箇所であり、作業は安全を優先して施工しています。地域の皆様には通行等にご迷惑をおかけすると思いますが、ご理解とご協力の程よろしくお願致します。



↑ 1/18現在の工事の様子

新規採用職員(沢上正俊)が
農業体験研修を受講しました!

水資源機構では、職員の資質や能力、技術力の向上などを目的として、様々な研修を行っています。その中で、新規採用職員を対象に「農業体験研修」があります。これは、農家などの利水者の実情を知るとともに利水者の視点に立って考える意識を職員に持たせるためです。

昨年11月に、当建設所第一用地課の沢上正俊が群馬県榛東村のイチゴ農家、清水章弘氏のもとで2週間泊まり込みの研修をさせて頂きました。清水氏は、水資源機構の管理する群馬用水の水を利用して農業を営まれています。



←色づき始めたイチゴ

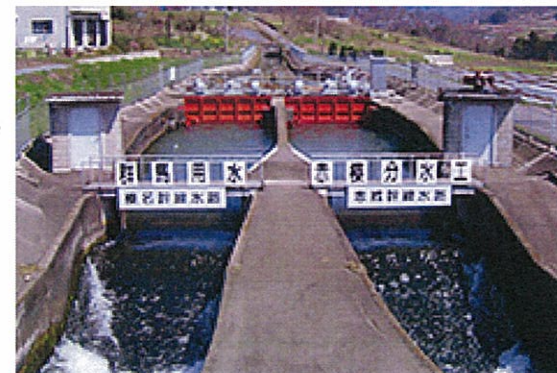
ハウスではイチゴの生長のため、一定時間まで夜間もライトを点灯する→



今回の研修ではビニールハウスの建て替えやイチゴの手入れなどの実際の作業もさることながら、水と農業の関わりなど、利水者である農家の方と直接話す機会が得られたことは大きな収穫でした。また、寝食をともにすることで、用水がどれだけ生活に密着したものか、知ることができました。

受講者である沢上は、地域の財産である水の開発、管理をする水資源機構で誠心誠意、職務に励み、地域にサービスすることで「水がささえる豊かな社会」に貢献していきたいとの思いを強くしています。

このような機会を与えて下さった、受入れ農家の清水家の皆様に感謝いたします。ありがとうございました。



↑群馬用水の赤榛分水工